

2026年6月18日



福徳岡ノ場

YACかわら版723

タイタンリッジ

新火山 軽石



火山名：タイタンリッジ
 国名：パプアニューギニア
 火山地域：ビスマルク海火山州
 地形/火山タイプ：クラスター/裂け目噴火
 最後の噴火：1972年
 位置：-3.03,147.78
 標高：-1,300 m

©スミソニアン博物館/米国地質調査所

NASA 2026年5月21日本日の画像は「ビスマルク海の新たな噴火」、ESA2026年5月28日の画像は「パプアニューギニア近海のビスマルク海で海底火山が噴火」と、相次いでビスマルク海の下海底火山タイタンリッジをとりあげていました。

国内では、太平洋諸島センター（南太平洋経済交流支援センター＝PIC）が5月26日のウェブサイトが次のように報じていました。

パプアニューギニアのビスマルク海で海底火山が噴火し、津波発生の可能性が指摘されている。噴火はタイタンリッジと暫定（ざんてい）的に呼ばれる海底火山で確認された…。

https://pic.or.jp/pi_news/11293/

ビスマルク海の海底火山の噴火活動は、西之島や諏訪之瀬島等の名前とともに、福徳岡ノ場のことを想起させます。コペルニクスブラウザ以前はEOブラウザでセンチネル2データ等を利用していましたが、南硫黄島の北の福徳岡ノ場周辺は、センチネル2観測データ等の利用対象範囲外で、ランドサット8データのみ利用可能でした。

海面上に突然出現した海底火山は、今回のタイタンリッジと同じように大量の軽石を噴出していました。⑥⑥-2⑥-3福徳岡ノ場の活動は短期間で終わり、現在も海面の変色など確認できませんが、大量の軽石群は冬が近づくころたいへんなニュースになりました。約1300km離れた、沖縄近海に海流で漂着しました。海上の長い橋で有名な古宇利島周辺にも軽石群が漂着し、海岸や入り江も除去作業で大変でした。⑦⑧

タイタンリッジの噴火口周辺の標高を、コペルニクスブラウザで標高横断面図を描くとスミソニアン博物館/米国地質調査所の「標高-1,300 m」というデータとは異なるようです。衛星画像では正確な噴火口位置は確認できませんが、海底山脈の存在を意識させてくれます。

タイタンリッジの噴出軽石群の漂着に関心もむきますね。

